

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
1 基本的生活習慣を身につけ、自らを大切にし他人を思いやる心をもつ生徒を育てる。 2 教職員、生徒が希望、情熱、愛情、信頼をもって一体となる、特色ある、活力にあふれる学校づくりを進め、保護者、地域から信頼を得る。 3 個々の生徒の能力、適性、興味、関心や進路希望に応じた主体的な学習を促し、きめこまかな指導の実践により、生徒の進路希望の実現を図る。 4 学校評価、教職員評価システムによって、自己点検、評価を行い、教育活動の改善を目指す。	1 基礎学力の定着をはかるために、様々な授業の工夫を行った。「西乙スタディカップ」や「国際交流活動」は学習意欲の向上に成果があったが、自主的な学習時間の増加に繋がる取り組みが課題である。 2 規範意識の向上と道徳心の育成については、全教職員が服装指導や頭髪指導に取り組み、一定の成果が見られた。今後も、教職員が一丸となった持続的で粘り強い指導が肝要である。 3 進路指導については、学年部と進路指導部、各教科との連携が図られ、個々の生徒に対して丁寧な指導を行った結果、私大合格者数の増加等の成果が見られた。今年度もチームプレーで指導を行うのが重要である。 4 広報活動については、説明会の工夫や、ホームページのリニューアル、中学校訪問を通して、本校の教育活動を外部へ発信することができた。今後も、地域の中学校を中心に連携を深め、学校に対する信頼を高める取り組みが必要である。	1 頭髪指導、服装指導等の生徒指導を全教職員で一致して行い、生徒にけじめのある学校生活を過ごさせることで、規範意識の向上と公徳心の育成をはかる。 2 各教科で生徒の学習意欲を高めるわかりやすい授業実践を行い、自主的な学習時間を増加させ、学力向上を図り、希望進路を実現させる。 3 当該分掌、教科、学年だけでなく、全教科・全分掌が協力し合って国際教育を充実させるとともに、新コース制に伴う海外研修旅行を成功させる。 4 学校説明会を充実させるとともに、学校ＨＰや「西乙だより」を通じて、中学生や保護者にタイムリーな情報提供を行い、志願者の増加をはかる。

評価領域	重 点 目 標	具体的方策	評 価		成 果 と 課 題
組織・運営	◇分掌間・教科間の協力推進	○分掌間と教科間での領域を超える連携と調整を図り、教職員全体が当事者意識を持ち、コースの取組を推進する。	C		・学年と教科の連携は図ることができるようになったが、分掌間の調整や連携に課題が残った。
学習指導	◇学力の向上	○授業参観等を有効に活用し、魅力ある授業を展開し、生徒の学力向上につながるよう課題設定を行い、指導技術・技能を向上させる。	B	B	・具体的な学習方法についての講義を早期に行い、生徒の学習意欲の向上につながった部分もある。 ・生徒に状況を把握し、現状に合う補充や補習の在り方についても今後継続して検討する必要がある。 ・公開授業で授業参観を行うことを活用し、教員の指導法等の技術向上に向けた取り組みに繋げる。 ・海外からの学校訪問生徒と積極的に交流し、異文化理解を深めることができた。 ・海外研修旅行は無事成功し、その成果を検証していく。
	◇家庭学習の充実	○学習時間調査を有効活用し、毎日の家庭学習時間が＜学年＋１＞となるよう指導する。	C		
	◇図書視聴覚教育の充実と委員会活動の推進	○視聴覚機器を利用しやすい環境整備を図るとともに、新着本等の紹介を通じて、生徒の読書意欲を向上させ、図書館利用の促進を図る。	B		
	◇国際交流の充実と異文化理解の推進	○米国アーリントン市との交流を中心に積極的に国際交流活動を実践し、第２学年での海外研修旅行を成功させる。異文化理解を推進するだけでなく、進路実現につながる学力向上に結びつける。	B		
進路指導	◇希望進路の実現	○様々な取組を通じて、具体的な進路目標を早期から持たせるとともに、最後まで粘り強く取り組む意識を醸成し、実践的な実力養成を支援し、個人面談を行い、希望進路を実現させる。	B	B	・早期からキャリアプラン学習に取り組み、生徒の動機付けに効果が得られている。自分を客観的に見つめ、実力にあわせた進学先を見つける力を養わせていく必要がある。
	◇キャリア教育の推進	○学年部との連携や高大連携等の取組を通じて、生徒個々のキャリア形成を促進し、進路決定率100%を実現する。	B		
生徒指導	◇規範意識と自主自律心の向上	○挨拶励行、身だしなみ、適切な言葉遣い、清掃の徹底、時間厳守（ベル着、遅刻防止）等、基本的な生活習慣が確立するよう、全教員が同一の基準で指導する。 ○生徒会の各委員会活動を活性化し、生徒の自主性を育成する。	C	B	・粘り強い指導により、生徒の生活状況は徐々に改善してきているが、全教職員の共通理解のもと、統一した指導が継続できるようにしていく必要がある。 ・PTAや警察・自治体と連携し、通学安全指導を実施している。あわせて、自転車の安全運転意識の向上に努めている。 ・部活動の加入率は４月現在から低下している。最後まで継続した活動をし、学校の活性化にもつながる指導が必要である。 ・生徒会・委員会活動は活発である。生徒による企画・運営の取り組みで、自主性を育成することができた。 ・保護者や医療機関との連携により、健康上の課題を持つ生徒の対応はできた。特に、支援の必要な生徒に対する教育相談の機能は充実している。 ・他者の人権を尊重できるような指導を継続して行っていく必要はある。
	◇交通安全指導の推進	○地域、PTAとも連携し、通学安全指導を行う。	B		
	◇特別活動や部活動の育成と充実	○生徒会活動及び学校行事に積極的に参加するだけでなく、部活動にも加入して積極的に取り組むよう指導する。部活動の加入率は80%を目指す。	C		
	◇環境・美化の推進	○学習環境を整備するために保健委員を中心に、ゴミの分別やペットボトルキャップのリサイクル推進等の環境美化活動、及び広報活動を行い、生徒全体の意識を向上させる。	B		
	◇生徒の実態把握と支援の充実	○健康調査等により生徒の健康実態を把握し、校医・家庭・教職員との連携を密にして、健康上の課題がある生徒を早期に発見し、対応に努める。 ○スクールカウンセラー及び特別支援センターとの連携により、教育相談機能を充実させる。	B A		
	◇人権意識の向上	○生徒の人権意識を高揚させるために、あらゆる教育活動において人権感覚を意識させる指導を行う。	B		
家庭・地域	◇広報活動の充実	○コースの特徴や本校の良さを中学生や保護者にわかりやすく発信するために、地元中学生への広報誌配布や、HPの更新とメールサービスの活用に努める。	A	A	・広報部が中心となり、学校説明会等で中学生・保護者向けにわかりやすい説明ができた。 ・HPの更新回数も多く実施できたが、内容について更に検討する必要はある。
	◇地域・外部への的確な対応	○窓口・電話業務を的確に行い、地域・外部へのサービス向上と、特色ある教育実践の広報に努める。	B		
安全管理	◇安心・安全な教育環境の整備	○校内危険箇所の点検を定期的に行い、早期対処に努める。また、不審者の侵入を防ぐため、外来者の確認を確実に行う。併せて、備品等の管理を徹底する。	A		・施設の老朽化が進んでいるが、修繕等環境整備は迅速に行われている。防犯対策も改善された。
生徒福祉	◇的確な生徒福祉業務の推進	○生徒の教育の保障と進路実現に向けて、就学支援金や奨学金等の業務を的確に行う。	B		・就学支援金等の手続きは事務局と担任の連携が図れている。

学校関係者評価委員会による評価	・民間企業は、方策の結果から有効性を判断し、弱点を補う次の一手を考える。学校現場でもその手法は取り入れるべきである。 ・実施段階における学校評価に対する管理職として、評価CをBにする努力・工夫を更にすべきである。また、「本年度学校経営の重点」を具現化するための具体的な方策を検討し、定期的に検証すべきだ。「本年度学校経営の重点」を縦軸に、「評価領域・重点目標・具体的方策」を横軸に、据えて焦点化すると、メリハリがついて教職員のやる気につながる。「本年度学校経営の重点」「具体的方策」の表現を明確にして、数値目標に基づいた評価と次年度の目標設定をすべきだ。ポイントを絞り重点化するのも必要であろう。
-----------------	---

次年度に向けた改善の方向性	・教職員全体が当事者意識をもち、学校経営・校内運営に当たる必要がある。そのためにも、各分掌部長及び教科主任が、それぞれの領域を超える連携と調整を図る。 ・校内喫緊の課題を解決するために、分掌部長・教科主任が中心となって、対策を早急に講じ取組を推進する。学習指導、進路指導、生徒指導は、すべてにおいて関連性があるので、連携した課題の解決策を講じる。 ・本校で取り組まれている様々な取組の実践を生徒募集結びつけるために、広報部を中心とし、本校の教育実践を中学生・保護者・地元に対して積極的にアピールする。
---------------	--